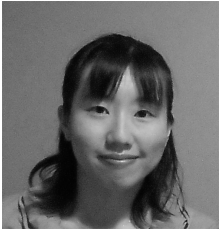


## 2013 年度「情報検索能力試験」に合格して

2013 年度の「情報検索能力試験」に合格された方の感想文をいただきましたので、ご紹介いたします。

### ◆ 2 級合格者



清水 久子さん  
ダイソー (株)  
R&D 本部 知的財産部

#### 受験動機

化学メーカーである弊社に入社して以来、数年間研究開発に携わった後、現職の知的財産部に異動してまいりました。現在の主な業務内容としては、特許の検索及び特許の出願権利化です。

自分の業務、とりわけ特許検索を担当する上では、インターネットで自分が調べたいものをなんとなく検索してみるといった感覚だけの世界と同様に考えていても、なかなか自分や会社が求めているレベルの結果が得られないことを痛感し、「情報検索」という分野を一から勉強し直してみよう、ということでこの度この試験を受験することにいたしました。

#### 受験対策

過去問に目を通してみると、普段業務でもなじみのある分野に関してはある程度理解できるのですが、なじみのない不得意な分野の勉強をどのように進めるかで悩みました。幸い、INFOSTA が主催するサーチャー試験対策講座がありましたので、基礎対策セミナーと応用対策セミナーの両方を受講することにいたしました。

対策講座では、これまでの過去問の詳細な分析に基づく、テストに出やすいポイントが凝縮された内容のテキストをいただきました。また、試験対策のテキスト「新訂情報検索の知識と技術」から、法改正やデータベースの改変が若干ありましたので、試験対策講座で最新の情報を教えていただけたことは、かなりのアドバンテージだったように思います。また、いただいたテキストは相当な厚みでしたが、バインダーに綴じられており、勉強したいページだけを分離出来ましたので、今週はこの章の勉強をするからこのページだけを持って行こう、といったフレキシブルな使い方が出来ました。

記述対策については、自分の持っている知識をフル活用して、とにかく何か書いてみるというのが大事だと教えていただきました。対策講座や過去問で取り上げられた内容について、自分ならどう書くかと考えてみると共に、試験対策テキストの 15 章の内容を入念に見直して当日試験に臨みました。

これから

今回なんとか 2 級に合格することが出来て、うれしい気持ちと同時にサーチャーとしてやっとスタートラインに立てたかなあ、と引き締まる気持ちになりました。化学系の知的財産部においては、知的財産権や特許分類の知識に加えて、STN の構造検索の知識など、まだまだ身に着けるべきものがたくさん残されていると思っています。

知的財産部に配属され数年が経ちますが、知的財産部としての経験年数が長くなってくると、どうしても研究者との距離が遠くなっていくように感じます。検索着手前のインタビューでも、依頼者が依頼してきた裏に潜む、「真に調べて欲しいコト」の意図を読み取ることが困難になりがちです。

「合格者を祝う会」でもある先生がお話されていましたが、「情報検索の分野にいる人は、依頼者とのコミュニケーションを大事しないといけない」というお言葉を胸に、今後も会社に貢献できるよう、日々精進していきたいと思えます。

### ◆ 基礎合格者



徳田 恵里さん  
株式会社キャリアパワー  
関西学術事業部 業務委託社員

私は現在、大規模な総合大学の図書館で業務委託社員として勤務し、レファレンスと ILL を担当しています。

図書館の勤務歴は 15 年近くになりますが、キャリアの大部分を目録担当者や文学館の司書（レファレンスは自館で所蔵する冊子体のツールを使用するものが中心でした）として過ごしてきました。当時はデータベースも他館の OPAC や Cinii Articles くらいしか使用する機会が無かったため、検索の方法については非常に無頓着で、自分の経験と勘を頼りに調査を行うスタイルで押し通していました。

現職は 3 年目ですが、着任当時は戸惑う事の連続でした。職場では他のスタッフとレファレンスの調査結果を共有しているのですが、自分の調査や検索方法が非常に曖昧で、「どうしてこの回答を導き出せたのか」が自分でもうまく説明できないことを自覚しました。説明できないという事は、もう一度同じことを質問されたときに回答が再現できない可能性があるため、調査のクオリティが安定していないという事に繋がります。

また検索の知識や理論が身につけていないため、学生から資料の探し方について質問を受けたり、他のスタッフから行き詰った調査についてヘルプを求められたりした際にも、相談者自身が自力で調査できるようになるための適切なコーチングができませんでした。

その頃職場の先輩から情報検索能力試験の話聞き、機会があれば受けてみようかと漠然と考えていました。

今回、どうせ受けるなら応用 2 級と併願すべきかとも思ったのですが、同日に実施される別の図書館系の検定とどちらを受けるか悩んでいる間に申込締切日が来てしまいました。そのため、応用 2 級は勉強が間に合わないと判断し、今年は基礎だけを受験することにしました。

私の試験対策は、テキスト『情報検索の基礎知識』を繰り返し読みこみ、覚える事でした。テキストの内容は司書課程の授業やこれまでの OJT で学んだ事の復習が中心になりましたが、コンピュータやインターネットに関する項目では初めて知ることが多く、興味を持って勉強を進めることができました。また、「バイグラム (bigram)」のように、概念は何となく知っていても正式名称は知らなかったという用語も数多くあり、長年の不勉強を恥じるどころでした。

試験当日はテキストの内容をほぼマスターしていたためか、余裕を持って回答することができました。結果も合格

ではありますが、私自身は、基礎試験合格はサーチャーとしてのスタートラインに立つ資格を得たぐらいのものと考えていますので、今後 2 級以上の試験の合格を目指してますますの努力が必要と感じています。

今回改めて情報検索について勉強をしてみて感じたのは、これからのレファレンス・ライブラリアンにとってサーチャーの能力は必須になるだろうということでした。特に私の勤務先のような総合大学では文系・理系を問わずさまざまな質問を受け付けるため、より広い分野の、より多くの言語のデータベースを使いこなすスキルが求められています。

今後スタッフ間で勉強会などを持つ機会があれば、サーチャー試験の問題にも取り組んでみたいと考えています。また基礎試験の知識は、現職の図書館員のみならず、これから図書館の仕事を目指す人にとっても大きく役立つ内容だと思います。

最後に少しだけ大きな事を書きますが、私の夢はライブラリアンとして長く、良い仕事を続けていくことです。そして何十年も先になるかもしれませんが、叶うならば、将来の図書館を担う人材の育成や図書館で働くスタッフのスキルアップをサポートする立場に就きたいと願っています。そのために身につけるべきスキルの一つとして、これから上級試験にもチャレンジしていきます。

